

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	バンビーニブルー		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 14日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 2人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 14日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	外で活動できる森や遊歩道、公園が多い。	森の中を散策する時に聞こえる虫の声や、木々を吹き抜ける風の心地よさで四季折々の自然を感じられる体験をしている。	植物や虫の種類や名前を知り、それを想像しながら描いたり、話したりする。
2	身体の保護能力やバランス感覚を養う遊具や器具がある。	室内の色々な場所に様々な遊具を設定設置して、楽しんで療育を受けられる支援ができるように心掛けている。	公園の遊具を安全に楽しく使えるように身体の使い方を知らせる。
3	一人ひとりの個性に合った支援が出来る。	一人ひとりに向き合い支援が出来る環境をつくり、職員間でも自由に意見を出せるようにしている。	弱みを強みに帰る支援ができる環境づくりをする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一日の定員数に対して放課後等デイサービスの利用者が多いため、児童発達支援(幼児)の利用者の枠があまりとれない。	小学校に進学する前の3学期期間に、少人数ではあるが利用者を募り受け入れている。	児童発達支援の利用者が利用できる枠を設けていけるよう工夫する。
2	幼児は保育園や幼稚園に送り迎えをするため、保護者との連絡が取りにくい。	兄姉がいる利用者は帰りの送迎の際に事業所での様子を話すことが出来るが、兄姉がいない利用者にはなかなか直接話が出来ない。	連絡帳、保護者との個人LINEに様子の写真を送る、発達支援の計画を立てることが必要である。
3	知育、ビジョントレーニングは幼児に合ったものを発達支援出来るが、パソコンなどを使った動くもの(動体視力)や反射神経を養う動きなど、動きに対する反射を培うものが少ない(運動の中では取り入れている)	運動面、自然の大切さの中で「生き抜く力」をつけてほしいということでパソコン利用はしていなかったが、学校でもタブレットで授業を行っているため必要性を感じてきた。	パソコン環境を整えて、一人一人が利用できる環境を作っていく。